

聖興寺略史

真宗大谷派 中野山 聖興寺



聖興寺略史

真宗大谷派 中野山 聖興寺

寺宝



同裏書



方便法身尊像（文龜 3 年）
開闢以來伝わる御本尊。

建築

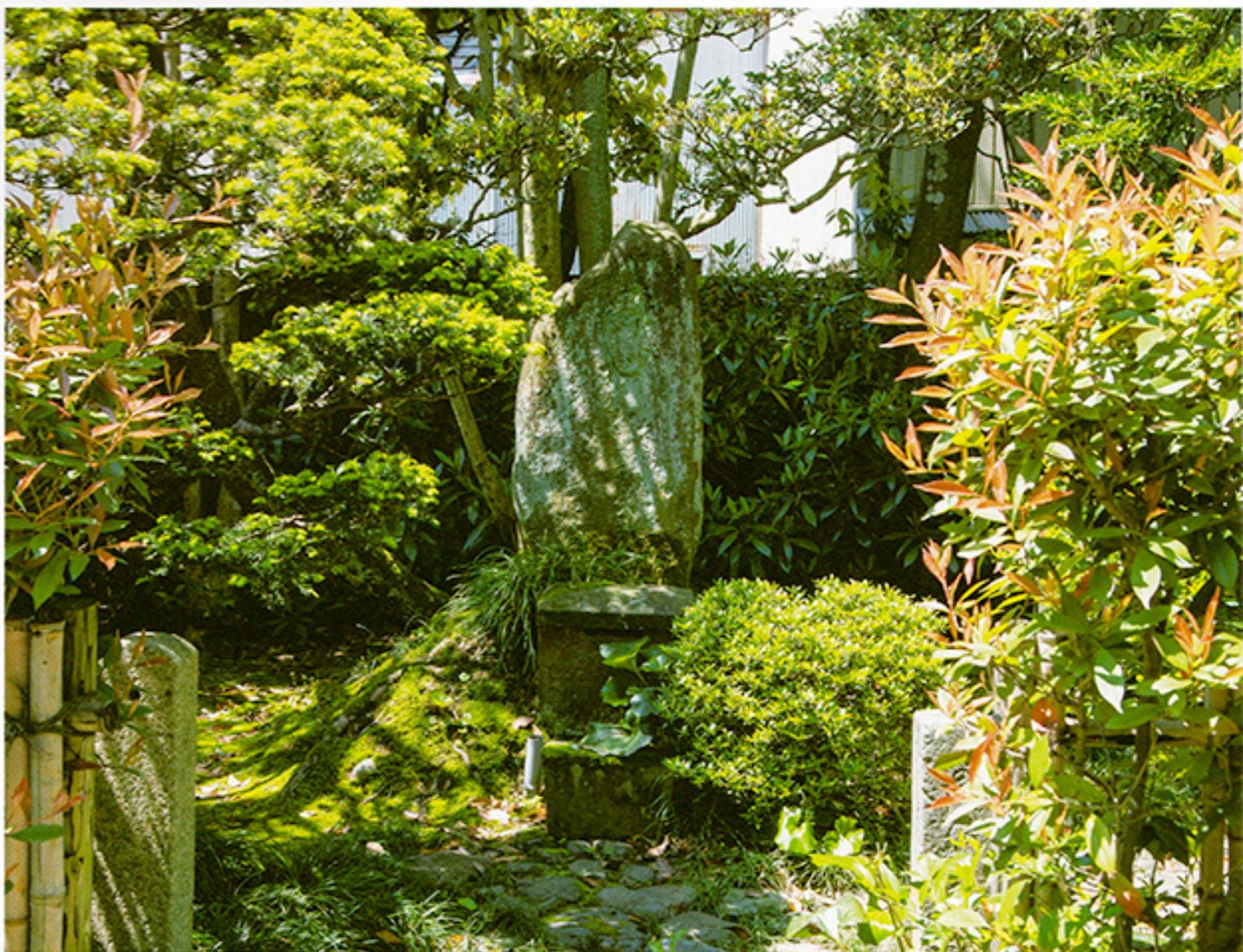


伽藍全景



山門横にある千代尼塚の石碑

横面に「百生や蔓ひとすじの心より」の千代尼の句が刻まれている。文化12年（1815）金沢・大乗寺43代、无学禅師の筆。白山市指定文化財。



千代尼塚

寛政11年（1799）の千代尼25回忌に建立された。碑面には辞世の句「月も見て我はこの世をかしく哉」が徳光屋五郎左衛門の手蹟で刻まれている。



千代尼肖像

日本画家・太田聰雨（仙台市出身、東京藝術大学教授）作。昭和13年（1938）第2回新文展出品作品。



千代尼木像

彫刻家・吉田三郎（金沢市出身、日本芸術院会員、日展常務理事）作。千代尼150回忌に作成された。素材は「月も見て」の辞世の句に通じる桂の木を使ってある。見る角度によって千代尼の表情が変わって見える傑作。

千
代
尼

はじめに

明治二四年（一八九二）五月、現在建っている聖興寺の前の本堂は全て焼失してしまった。その時、御門徒の人々は「うちが燃えている」と言つて駆けつけてきたそうだ。

聖興寺に生まれ、火事に遭遇し、寺の再建に住職と共に尽力した曾祖母の堯子は、八八歳で亡くなる二日前の夜、「火事だ」といつて夢にうなされていたことを、私は子どもの頃の思い出として記憶している。

焼失した翌年から始まって八年の歳月をかけて再建された本堂は、「当時の日本の木造建築としては一級品であるからしっかりと保存しなければ」と言つていた叔父の浅香年木の言葉のとおり、本堂をはじめとする建物は、平成二三年（二〇一二）一月に国の登録文化財に登録された。立派な本堂を再建した一五代嚴華に厳しく育てられた父の一七代闡超は、私に「（長く続いてきた儀式などを）やめるのは簡単、でも（新たに）創りあげるのは簡単なことではない」と常に言つていた。

あるとき父の友人の安嶋彌さん（元文化庁長官・東宮大夫）が訪ねて来られたときに「聖興寺さんは生きた文化財だね」と言つていただいた言葉がとてもありがたく、責任を感じさせられたことでもあつた。

聖興寺の歴史が始まつて、やがて五二〇年、本堂が再建されて一二〇年。ひたすら門徒の聞法の場として開かれてきた聖興寺の歴史を今一度確認すべしと思つて、この聖興寺略史を刊行することとした。

二〇一八年一一月

目次

はじめ	1
I 通史	
松任聖興寺略史	浅香 年木
一 聖興寺の生い立ち『中世』	4
二 中山への足どり『近世』	9
三 崩れゆく封建制『近代』	18
あとがき	26
コラム	
鐘楼と棟方志功の梵鐘	浅香以都子
千代尼塚について	中野塔兩
II 明治再建	
聖興寺明治再建とその資料	山崎幹泰
一 研究の背景	33
二 研究の目的と方法	34
三 明治再建の経緯	34
四 聖興寺明治再建に関する資料の概要	35
五 建物の概要	42
六 荒木保太郎について	48
まとめ	49
III 建築	
聖興寺の建築的所見	山崎幹泰
一 本堂	51
二 客殿	
三 座敷	55
四 庫裏	56
五 茶室	57
六 南土蔵	55
七 北土蔵	53
八 鐘楼	59
九 表門	60
千代尼堂・草風庵について	笠島理
一 聖興寺の由来	62
二 聖興寺と千代尼	62
三 千代尼堂・草風庵	63
四 草風庵屋根修復工事にあたつて	64
聖興寺系図・年表	66
執筆者・協力者	76
おわりに	77

おわりに

本願寺に声明作法審議会という部会が出来て、最初の委員であつた前住職は、大学の卒業論文のテーマにした「宗教心とその表現」を生涯の課題として、寺での儀式・作法が人間の宗教心の表現としていかに執行されるべきかを実践してきた。その父も亡くなつて五年が過ぎ、松任を愛し聖興寺を愛してくださつた安嶋先生も昨年の暮れに九五歳でお亡くなりになられた。来年三三回忌を迎える叔父の浅香年木が、およそ五〇年前の一九六四年にかいた「聖興寺略史」の原稿が活字になることなく今日に到つた。

三〇才だつた叔父がそのあとがきに寄せた文はきわめて新鮮で、当時の思いが伝わつてくる。父の師、曾我量深先生の著作に「伝承と己證」というのがある。歴史の岐路に立つて何を伝えていかなければならぬか。生きた文化財を伝えていくものの責務であろうか。

原稿を整理するにあたつて労をとつていただいた叔母の浅香以都子氏、ご助言いただいた木越祐馨先生、親鸞聖人の木像についてお調べいただいた齋藤望先生、建築物の解説をいただいた山崎幹泰先生、鐘樓堂の解説をいただいた友人の笠島理氏、木子棟斎の図面をご寄付いただいた喜多卓郎様、聖興寺略史の題字を書いていただいた柳田泰山様、浅香の存命中に親しくしていただいた能登印刷取締役相談役・能登隆市様、出版担当の吉田智史様に心より感謝申し上げます。

二〇一八年師走

聖興寺第一八世 中野 興真

聖興寺略史

二〇一九年一月一日 発行

発行者 中野 興真

発行所 中野山聖興寺

〒九二四一〇八七七
石川県白山市中町五六一
電話(〇七六)二七五一〇一六一

制作 能登印刷出版部
印刷・製本 能登印刷株式会社